



診察室から 頭部打撲 (スポーツ、前編)

院長 福田 雄高

暖かくなり、行楽シーズンも迎え、スポーツをする機会は多くなってきているものと思います。スポーツによる頭部打撲において、心配になるのは、脳挫傷、硬膜下血腫、外傷性くも膜下出血などの頭のなかの出血や、骨折です。

特にラグビー、柔道、サッカー、ボクシング、バスケットボールなど、相手との接触プレーを避けられない競技においては、より注意が必要でしょう。あるいは野球などその他の競技においても、ボールによる損傷、選手同士での交錯など、危険な状況もあるものと考えます。

中には重い後遺症を残す場合や、万が一の場合には生命の危険性を伴う場合もあります。以前にも増して、スポーツによる頭部打撲に対しては、適切な対応や、競技復帰に関しては慎重に対応する必要性が提唱されています。

脳震盪：頭部に衝撃が加わることで多彩な症状を起こします。

意識消失や健忘だけでなく

・頭痛があり、つづく、それがひどくなる。

・眠そうである、逆に眠れない。疲れやすい。耳鳴り、めまい。

・音や光が気になる。

・ひとや場所が認識できない。嘔吐を繰り返す。

・いつもと違う行動をとる、混乱しているように見える、とても怒りっぽい、けいれん(手足が勝手に動いてしまう。)

・手足に力が入らない、しびれる

・立位や歩行が不安定である、しゃべり方が不明瞭である。

これらは、脳震盪による症状を疑います。



脳震盪を疑った際は、

その日は競技には復帰させてはいけません。

ただちに競技・練習への参加を止めることが望まれます。また、受診もお勧めします。診察、万が一、頭蓋内出血や骨折を認めないか調べます。

スポーツで頭を打った際は、慎重に行動を行い、迷った際は、脳神経外科へ躊躇なく連絡して頂ければと考えます。競技への復帰も状態を確認しながら、一歩ずつ慎重に行うことが勧められています。

(後編へ続く)



くすのき *"A quien buen árbol se arrima, buena sombra le cobija"*

「良い樹に寄るものは、良い木陰に守られる。」良い樹に寄りたいたいものです。